

事業のタネシート

活動地域・団体名：羽幌地域生物多様性保全協議会

事業名称 1：海鳥を取り巻く環境保全と両立した「地域事業者の商品開発や販売支援」事業

あらすじ

海鳥を取り巻く地域の自然や環境問題についての学習会や他地域・他業種の仲間をつくる交流会を通じて、留萌地域の事業者による環境保全が組み込まれた取り組みが起こり、マルシェ等での販売支援や商品開発支援を通じて事業者の取り組みが認知されることで、地域内外の応援者や取り組みに参入する地域事業者が増加し、環境保全と両立した産業振興が行われていく。

ストーリー

海鳥を取り巻く地域の自然や環境問題についての学習会を通じて、海鳥や地域の自然と自分の仕事と一緒に語ることのできる事業者が増え、他地域・他業種の仲間をつくる交流会を通じて、環境保全が組み込まれた事業や活動が起こり、マルシェ等での販売支援や商品開発支援を通じて、環境にやさしい商品が増えるとともに地域内外に取り組みが認知されていく。認知度が上がり留萌管内で環境保全に関する意識が上がり、応援人口や参入する事業者が増えることで取り組みの強化や新しい活動が増え、環境保全と両立した地域産業の振興が進んでいく。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域の環境保全に取り組む事業者が、地域内外の応援を受け、環境保全の取り組みを持続的・発展的に行っていく	<ul style="list-style-type: none"> 海鳥センターは鳥の愛好家へアプローチできるが、販売支援は限られており(マルシェ等)、ビジネス分野に強い主体(金融機関等)の協力が必要 SBF協議会が可能な支援策の具体化 支援に係る資金の調達の主主体と恣意的な運用にならない方策 風力発電など生物多様性保全に課題のある一方で環境保全に大きく係る事業について、認証・支援をどのようにしていくか? 取り組みを向上させ認証取得にまでつなげるモチベーションの創出 協議会の主体である羽幌町が留萌地域の事業者の取り組みについて支援活動を進めるロジックはどうするか 課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像 地域の金融機関(留萌信用金庫) 管内の農業協同組合・漁業協同組合 農業改良支援センター 羽幌商工会 羽幌町地域振興課 羽幌町商工観光課 環境保全に取り組みたい各産業の事業者 再エネやバイオマス発電に取り組む市町村担当者、企業
②課題	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全に取り組む事業者が評価される仕組みがない 個々の市町村では地域の産業基盤が弱く、取り組み規模が小さい 他市町村・他業種の人々の交流が少なく、仲間がいない 	
③なぜこの事業をやるのか(Why)	留萌地域で環境保全に取り組む事業者が増えるようにするため 環境保全に取り組みたい事業者が参入できるようにするため	
④地域資源	生物多様性に配慮した地域の先駆的な事業者、100万羽の海鳥、北海道海鳥センター(日本唯一の海鳥専門センター)、SBF認証制度(事業者が海鳥を取り巻く自然環境の保全に取り組む指針になる)、管内をまたがる一次産業や観光業団体の存在	
⑤商品・サービスの具体的な内容(What)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の海鳥や環境保全について学ぶイベント・勉強会の開催 海鳥をとりまく地域づくりやSBF商品の開発等を目的とした交流会・マッチング SBF認証を取得した事業者の商品をはじめとした地域の環境にやさしい事業者の取り組みを普及啓発するイベント・マルシェの開催 SBF認証制度の運用、地域事業者への制度紹介 加工業・酪農業に対応した認証制度と発信方法の整備・運用 事業者主体の環境活動をサポート 	
⑥担い手(Who)	SBF推進協議会(北海道海鳥センター、生物多様性に配慮した地域の先駆的な事業者、管内をまたがる観光業団体:(株)コササル、管内をまたがる一次産業団体)、地域の金融機関、商工会	
⑦事業で生じる循環	事業者の海鳥の知識向上・事業者同士のつながり醸成→環境保全の取り組み・地域づくりが増え、環境保全に取り組む事業者の輪が広がる→マルシェやイベントで取り組みを普及啓発することでSBFの認知度が高まり、応援者が増える→事業者が評価されることで、参画する人が増えて、海鳥や環境について学ぶ人が増える→環境保全に取り組む人が増える	
⑧事業で生じる成果	地域づくりに取り組みたい地域の事業者が環境保全や海鳥をきっかけに協力して「やりたい」を実現することで、地域産業や地域づくりの取り組みが活性化。取り組みの認知度が上がることで地域住民の環境への意識が向上し、応援・関係人口が増えていく。	

事業名称 2 : 消費者と留萌地域の自然や事業者をつなげる「関係人口の構築」事業

あらすじ

地域内外の応援者（寄付者、消費者等）を生産者・事業者等とつなげる仕組み・窓口を作り、関係人口を増加させることで、地域の海鳥を取り巻く自然環境や環境にやさしい事業者へ、資金や応援の声(やりがい)として地域に還元される。

ストーリー

留萌地域内外の応援者（寄付者、消費者等）と留萌地域の生産者・事業者等をつなげる仕組み・窓口（ツアーやWEBサイト等）を作り、留萌地域や生産者とのつながりを強めることで、関係人口を増やすとともに支援の貢献度を高めることで、資金(寄付金等)ややりがいとなる応援の声が、海鳥を取り巻く自然環境や環境にやさしい事業者へ還元されていく。それにより事業者の取り組みの拡大や新規事業者の参入が進むとともに、地域の自然環境、生物多様性の保全が進み、地域の生態系の象徴である海鳥の保全も進んでいき、さらに地域外の人の留萌地域とその自然への関心が高まり、より関係人口が増加していく。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック	
①ありたい未来	地域外の人々が海鳥を取り巻く留萌地域の環境の保全に関心を持ち、環境保全活動や環境にやさしい地域産業を応援することで、地域づくりや環境保全の活動が持続的に進められ、地域が活性化している	・環境保全に取り組む生産者のツアー受け入れ可能な時期、トラベラーのニーズ、留萌地域の気候や自然に関する時期などの調整 ・イベントを定期的に組む場合の生産者の受け入れ体制 ・羽幌町GCFの活用方法や予算確保に係る庁内の協力体制（協力を得るためのロードマップ） ・広域で実施するCFの仕組み	
②課題	・認証商品の購入者、ガバメントクラウドファンディング（GCF）等で応援してくれる人は一定数いるが、繋ぎ止める仕組みがない ・事業者と地域外の人々の交流が少ない ・地域外の応援者のとれる消費行動が限定的		
③なぜこの事業をやるのか（Why）	生産者・消費者とのつながる仕組みを作り、応援人口を増加させることで、環境に配慮した生産者・事業者の取り組みが地域外で評価され、寄付などの支援方策で地域に還元される。		
④地域資源	100万羽の海鳥がくらす地域(天売島)、環境に配慮した取り組みを行う生産者・事業者、SBF認証を受けた事業者の認定商品、管内をまたがる観光業団体		
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	・ふるさと納税寄付者向け現地ツアー ・羽幌町のプロジェクト型ふるさと納税(GCF) ・SNS等での効果的な情報発信（↓R6年度以降の取り組み） ・広域でのCF ・消費行動につなげるポータルサイト（HP作成） ・地域内外のこども向け農泊ツアー ・地域外応援者の寄付以外の支援方策整備		
⑥担い手（Who）	SBF推進協議会（（株）コササル、生物多様性に配慮した地域の先駆的な事業者）		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	SNSでの情報発信やツアーを実施し、支援者との対話（コミュニケーション）を行うことで、関係人口を増やすとともに、支援者の貢献度を高めていく。貢献度の高い支援者が増やすことで安定的に寄付金などの支援が得られる。さらに応援方法を拡充することで、さらに応援人口の増加につながり、寄付金が事業や環境保全により活用される。		・羽幌町観光協会、留萌観光連盟 ・羽幌町地域振興課 ・天売島を含む地域の事業者・地域づくり団体
⑧事業で生じる成果	海鳥を取り巻く自然環境の保全に共感する人が留萌地域外で増え、地域外からの支援方策や評価の声が増える。地域外からの応援が環境保全活動や地域づくりの取り組みへ還元される。		

事業名称 3 : 海鳥を通じて行う生物多様性保全等の「留萌地域の環境・地域学習」の展開

あらすじ

留萌地域の小・中・高等学校で、海鳥を通じて環境教育・地域教育を行うことで、地域の人々の環境意識が向上し、地域の環境保全や地域産業の担い手や応援人口を増やす。□

ストーリー

地域の生物多様性や産業の関わりを学ぶ機会や事業者との交流を増やすことで、子どもが地域の自然や産業への愛着を育むとともに、環境保全や地域の人材育成への関心の高い地域事業者が増えていく。留萌地域の大人・子ども双方の環境意識や地域への関心が高まり、地域の自然や産業に誇りを持つ人材が地域産業の担い手や応援者になっていく。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック	
①ありたい未来	地域の小・中・高等学校で海鳥・渡り鳥を通じた環境・地域学習により、生物多様性の重要性や地域産業を誇りに思い、環境保全活動への参加や地域産業の応援をする	<ul style="list-style-type: none"> ・留萌地域で“海鳥”が教材として認識されていない ・羽幌高校の環境学習のプログラム化や海鳥センター人材の省力化 ・海鳥センター以外の海鳥を通じた環境・地域学習を行う主体 ・学校教育に導入する際に、教員の負担にならないものにしていく ・野外活動や給食に係る資金の安定的な調達方法の確立 ・地域の海鳥や生物多様性保全に共感する教育関係者とのつながりが少ない 	
②課題	管内では共有されていない生物多様性に係る地域学習、地域資源として価値が十分に理解されていない海鳥の存在、地域の子どもが農家・漁師等の地域産業に関心・興味がない、地域の事業者と地域の子どもの交流が少ない		
③なぜこの事業をやるのか (Why)	留萌地域の子どもたちが自分のくらす地域に誇りを持ち、地域で活躍する人材となるため		
④地域資源	北海道海鳥センターと羽幌高校の学習実績、生物多様性に配慮した先駆的な事業者、清掃やビオトープ保全等の地域住民の活動、海鳥センターのイベント、小中高の授業に協力しているSBF協議会参加事業者		
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> ・羽幌高校の環境学習推進(総探学習のプログラム化、天売島・焼尻島での環境学習、環境イベントへの参加) ・地域の農家・漁師と子どもと一緒に取り組む環境活動(例：圃場・海岸のゴミ拾い等) ・海鳥センターの子供向け海鳥イベント ・海鳥について学んだSBF参加事業者が自分たちの仕事と一緒に海鳥のことを語る講話(長期的な取り組み↓) ・留萌教育局や地域団体と連携した小・中・高校ごとの地域学習パッケージの提供 ・地域産業と教育機関の共同事業(長期的なインターンシップ、畑づくり、地域づくりクラブ、SBF認証食品の学校給食) 		
⑥担い手 (Who)	SBF推進協議会(北海道海鳥センター、羽幌高校、地域の環境団体や地域づくり団体、アウトドア団体、生物多様性に配慮した先駆的な事業者、海鳥について学んだ事業者)		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	環境学習・地域学習や事業者との交流により、子どもの地域の自然や産業への愛着が育まれるとともに、事業者の環境保全や人材育成への関心も高まる。→留萌地域の大人・子ども双方の環境意識や地域への関心が高まり、環境保全や地域活動への参加者が増える。→環境意識の高い地域産業の担い手が増えていく。		<ul style="list-style-type: none"> ・留萌教育局 ・各市町村の学校教育及び社会教育関係者 ・各地域の環境団体や地域づくり団体 ・羽幌町地域振興課 ・地域の環境保全に取り組む事業者 ・地域の小中高校 ・アウトドア企業
⑧事業で生じる成果	海鳥・渡り鳥を通じて地域の自然や産業を学ぶことで、環境保全活動を行う人口が増加する。地域の自然や産業に愛着を持つことで、地域産業に係る情報発信を行う人や地域産業の担い手が増加する。留萌地域の地域資源として海鳥の価値が向上し、環境保全活動が推進する。		